

中央区立城東小学校 住所 中央区八重洲2-2-1

校長 小久保 秀雄

児童数 173名 学級数 6 教員数 12名 職員数 14名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

本校では、①確かな学力の向上、②心豊かな子どもの育成、③健康・安全教育の充実の3点を重点目標に掲げて教育活動を行っている。

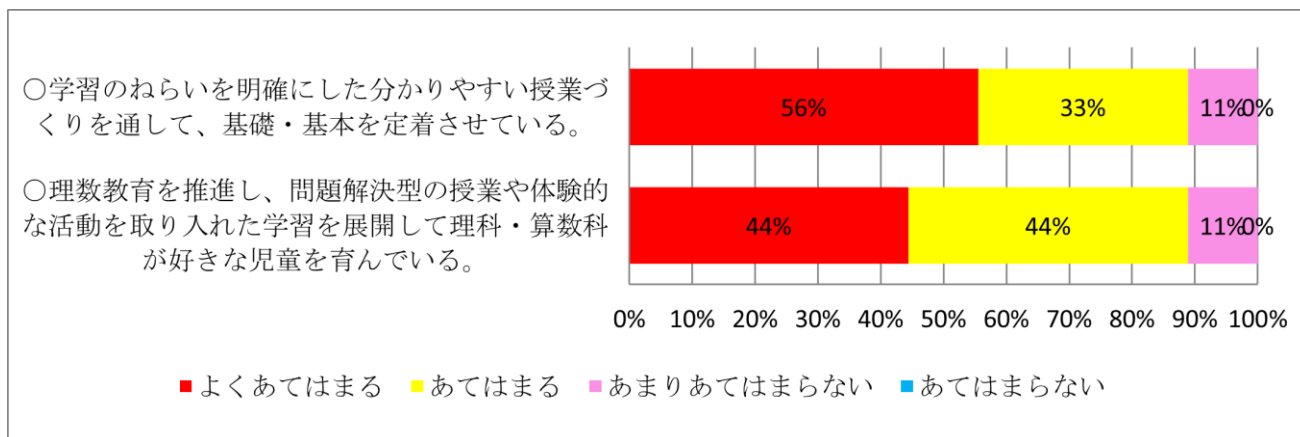
未だに新型コロナウイルス感染症が収束しない中ではあるが、今年度は様々な制約を工夫して、できる限りこれまで本校で行われてきた教育活動を実施するように努めてきた。また、8月の校舎移転、11月の落成・61周年記念式典等にも、保護者や地域の方々と協力し合って実践に移せるように図ってきた。児童にとっても、9月からは新校舎での生活が始まり、新たな生活様式やルールを身に付けながらの学びの日々であった。

こうした背景の中、今年度の教育活動について教員の自己評価を行うとともに、令和4年12月に保護者、児童による学校評価を実施した結果、以下のような実態を把握することができた。これらの結果を受け、次年度の教育活動に生かしていきたいと考えている。

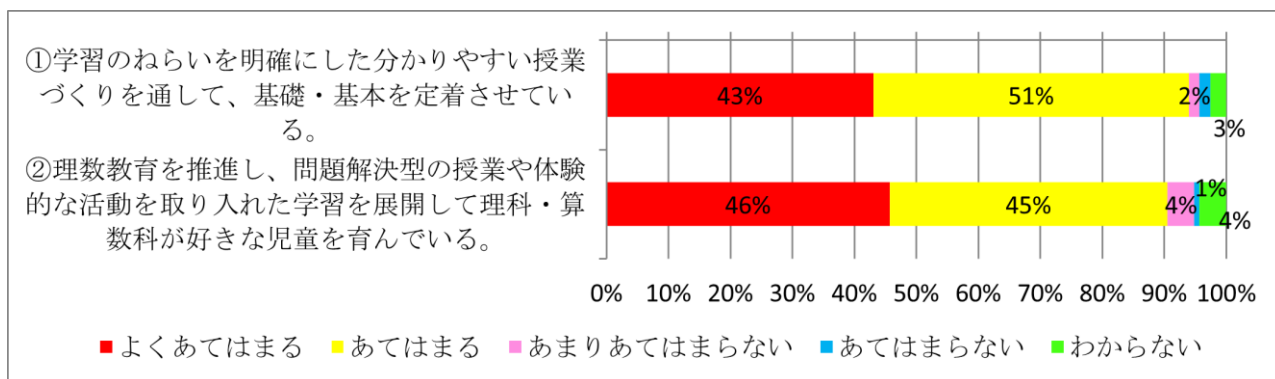
(保護者アンケートの回収率：80%)

(1) 重点目標1「確かな学力の向上」について

<教員の自己評価>



<保護者アンケートによる評価>



※表中の数字(%)は四捨五入のため合計が100にならないことがあります。以下同様。

「基礎・基本の定着」では、保護者による評価は「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が94%、「理数教育の推進」では91%と、昨年度（同83%、75%）より大幅に上がった。

今年度は、年間5回の学校公開を実施した。また、体育学習発表会（運動会）や展覧会（2月）も保護者に公開して実施した。そして11月には落成式典・開校61周年記念式典を挙行了。これらの公開行事の開催に当たっては、様々な制約のある中、参観者の人数を制限したり、時程の工夫をしたり、行事によってはオンライン配信を行ったりと、できるだけ子どもたちの体験的な学びを保障しながら保護者にも伝えられるように努めてきたところである。

また、理数教育に関しては、昨年度の反省から、

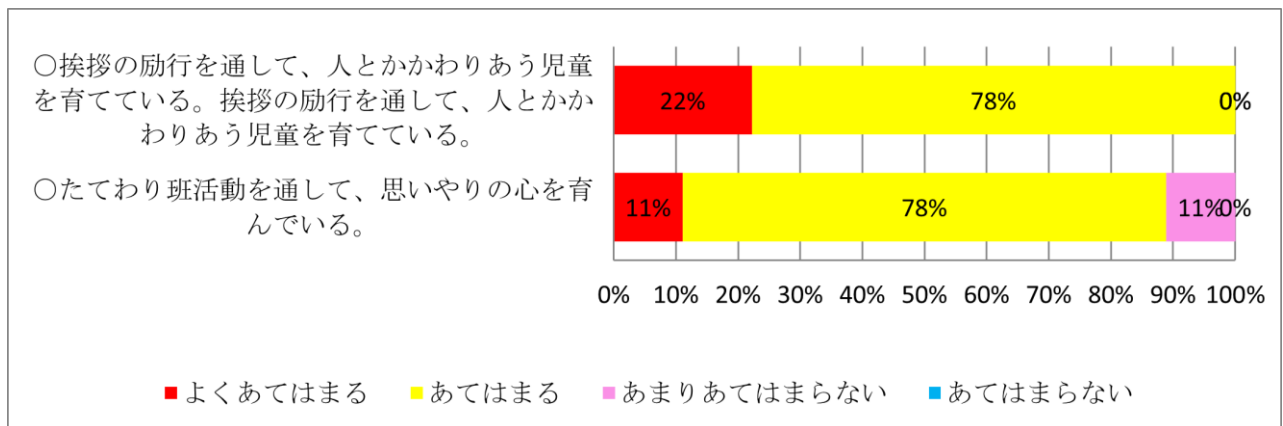
- ・学校と家庭をつなぐタブレット上での「Google Classroom」を活用し、日常の体験的な学びの様子を伝える。
- ・全学年で実践授業を行い、研鑽し合った成果を「城東小理数ニュース」として区内の各校に配布しているものを、保護者にも配布する。

を実施してきた。理数教育の実践状況としては、今年度も早稲田大学と連携した実験教室は中止となったが、日帰りでのサマー・サイエンスキャンプの実施、ディレクトフォースによる実験教室の実施、PTAの協力による東大キャストの実験教室の実施等により、保護者の理解が高まったためと考えられる。

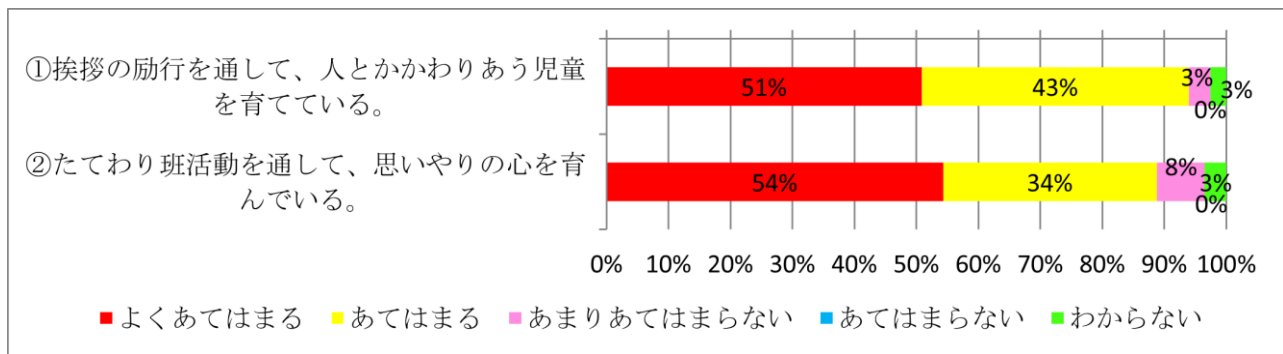
次年度以降も、低学年での生活科を通して植物の栽培や校外学習における自然体験等の学びを、中・高学年での理科における自然観察や実験を重視した学習へつなげ、児童の学力の向上を図っていく。また、理科・算数科では、「問題把握」、「計画・見通し」、「実験・自力解決」、「集団検討」、「まとめ・考察」という「問題解決型学習」の授業をこれからも大切にすると共に、日常の活動を丁寧に伝えていく。

(2) 重点目標2「心豊かな子どもの育成」について

<教員の自己評価>



<保護者アンケートによる評価>



「心豊かな子どもの育成」の取組については、昨年度に比べて「挨拶の励行」が7%増、「たてわり班活動」が3%減と、若干の増減はあったが、90%前後の高い評価だった。

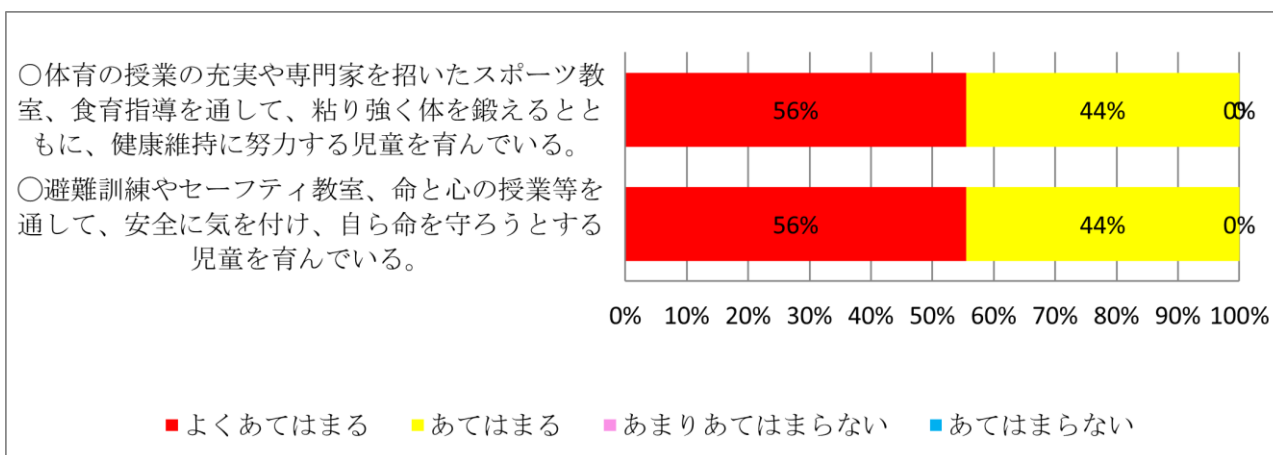
「挨拶の励行」については、児童アンケートの「あいさつ」の項目が昨年度より6%増（84%）になっていることと通じる。今年度は、挨拶・ありがとうキャンペーン期間中に、毎日の振り返りをするだけでなく、学校全体の中間状況を数値で表示するなど、児童自身に実施状況が見えるように工夫した結果、児童同士が声を掛け合う場が増えてきたことと一致している。次年度以降も、児童の実践状況が見える形にするなどの工夫をして、さらなる意識の向上を図っていく。

一方、「たてわり班活動」に関しては、コロナ禍の状況を見ながら「たてわり班清掃」や「たてわり班集会」、「たてわり班レクリエーション大会」等を進め、1年生から6年生までがふれ合える機会を大切にしたい。この結果、児童アンケートでは4%増加（94%）し、児童の自己肯定感を高めることができたと捉えている。

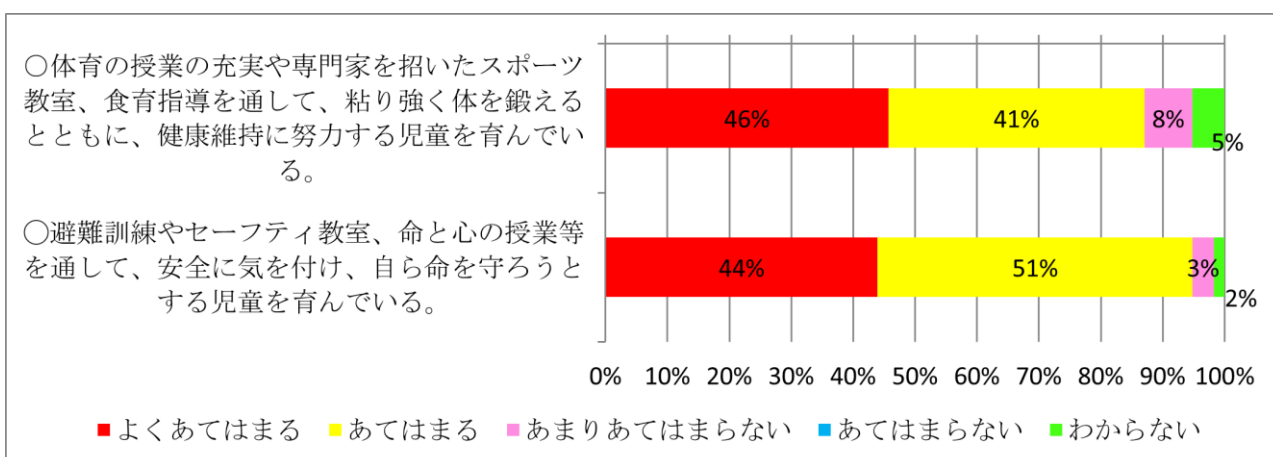
次年度も、コロナ禍の状況を見ながらたてわり班活動を工夫し実施していく。

(3) 重点目標3「健康・安全教育の充実」について

<教員の自己評価>



<保護者アンケートによる評価>



体力の向上を図るために、今年度もセントラルスポーツから講師を招き、「投げ方教室」、「かけっこ教室」、「なわとび教室」、「跳び箱教室」、「サッカー教室」を行った。さらに、体育朝会ではチャレンジスポーツとして短縄跳びや長縄跳びに取り組むなど、運動の機会を設けてきた。また、校舎移転後は、雨の日でも対応できる屋根付き屋上校庭で遊ぶ児童が増え、ボール遊び、鬼遊び、一輪車等が盛んである。この結果、児童

アンケートの「コロナ対策や健康な体づくり」は90%となり、保護者アンケートでは、昨年度より若干下がったものの、87%の高い評価をいただいた。次年度も、上記活動の継続を行う。

安全面においては、校舎移転に伴い、夏季休業中に登校練習をするなど、新しい環境に慣れるための対策を行ってきた。スクールバス対応では、駐車位置が厳しい状況の中、PTA 役員や登下校部員の協力を得て、登下校の見守りが行えた。また、昨年に引き続き、コロナ対策として、校内の清掃、換気、3密にならない環境作りと児童への指導、保護者への呼びかけを行ってきた。さらに、警察署・消防署と連携したセーフティ教室や引渡訓練・避難訓練等を実施し、SNSの危険性や生活・災害・交通の安全について指導・支援してきた。

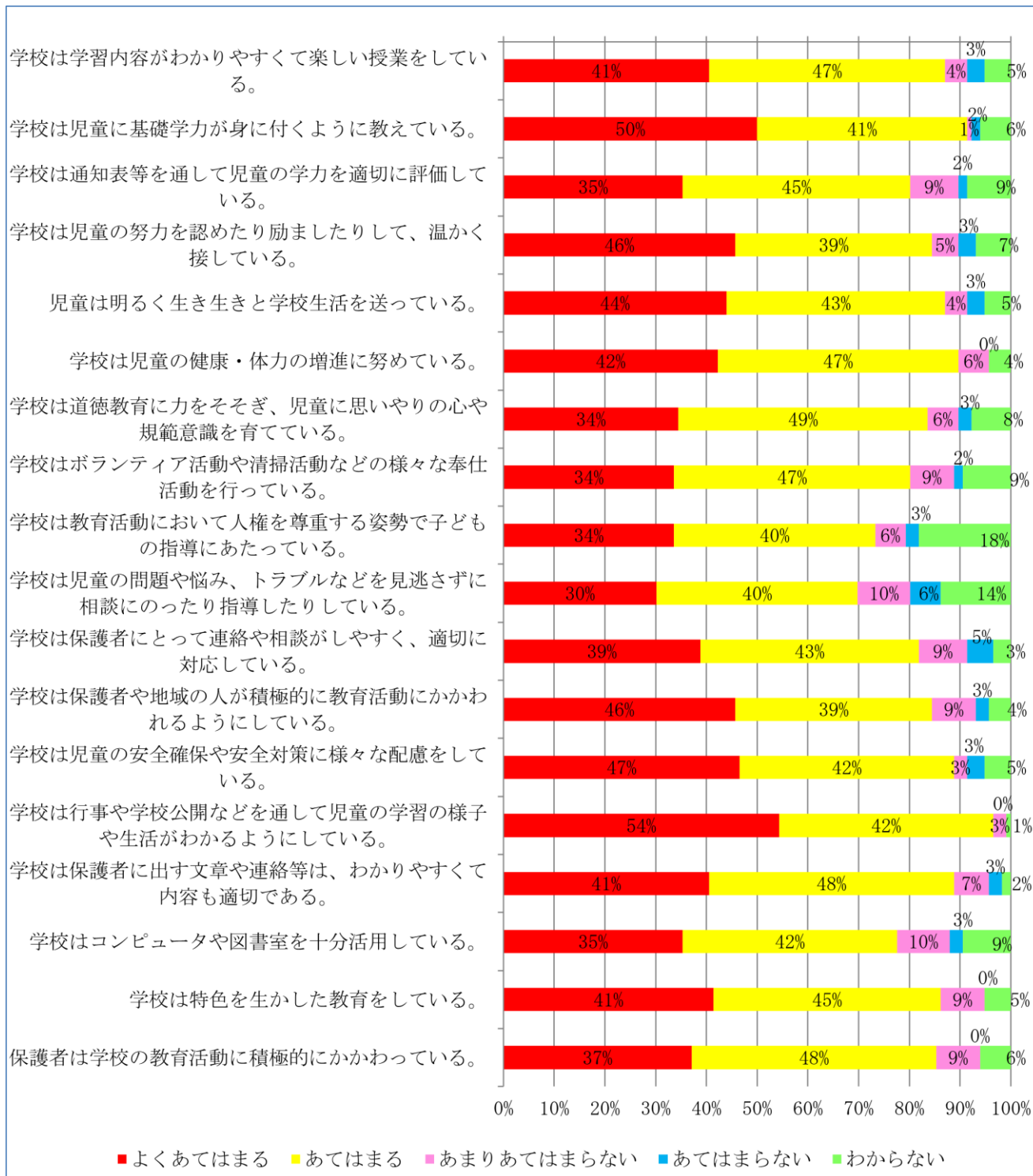
こうした取組の結果、保護者アンケートにおいて95%の高い評価となった。今後も、新校舎での安全のルールを徹底すると共に、コロナ対策をしっかりと行いながら、安全確保に向けて一層充実した教育活動を目指していく。

2 重点目標以外の評価における達成状況及び達成のための取組状況

(1) 教員の自己評価より

全体総括では、項目によるばらつきはあるもののほとんどの項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が90%以上の高い評価であった。今年度は、校舎移転があり、新校舎になってからの教育活動計画の変更や、新たな学校生活づくり、落成・周年記念式典等、例年以上の多忙な中であったが、教職員一人一人が「チーム JOTO」の一員として職責を果たしてきた表れであると捉えている。しかし、研修面、特色ある教育活動面では、共に80%前後の評価であった。これまで本校が積み上げてきた理数教育や他の活動を深めるための研修機会・研修時間が十分に確保できなかったことによるものである。次年度は、研修機会・研修時間の確保に努め、教育活動を深められるようにしていく。

(2) 保護者アンケートによる評価より



※今年度、評価項目の若干の内容変更と項目数の増加（3項目）がありました。

18項目中15項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が80%を超えた評価をいただいた。しかし、昨年度15項目中12項目で90%以上だった評価と比べると、全体的に低下が見られる。反面、昨年度、「わからない」の評価はほとんどの項目で0～1%だったが、今年度は5%以上の項目が多く、中には10%を大きく超えるものもあり、このことが少なからず、全体評価に反映したと見られる。要因として

は、「行事や学校公開などを通して学習・生活の様子を分かるようにしている」の項目が96%の評価をいただいていることを踏まえると、それ以外の場での日常の様子が伝わっていないことが考えられる。現在、理数教育の様子だけでなく、ペーパーレス化に伴い、学校だよりや学年だよりでも「Google Classroom」を活用していっているため、この充実を図りたい。

- ・理数教育の様子だけでなく、日常の様子を「Google Classroom」等で発信していく。
- ・ペーパーレス化に伴い、年度当初に、保護者に「Google Classroom」の配信・着信状況をチェックし、閲覧の習慣化を図る。

特に、「人権を尊重する姿勢で子どもの指導にあたっている」や「児童の問題や悩み、トラブルを見逃さずに」の項目が70%前半で、「わからない」の数値が高いため、これまでも行ってきたトラブルに対する複数教員での対応や、指導の情報を共有し合って全校体制で支援に望む姿勢を強化すると共に、保護者にも支援体制等を伝えていく。

(3) 児童アンケートの状況より

昨年に引き続き、今年度も4～6年児童にアンケートを行った。重点項目の3つはいずれも90%以上で、高い評価だった。

各項目では「悩みなどについて話しやすい先生がいるか」が昨年度より10%増加し70%になった。まだ、十分に高いとは言えないが、改善が図られてきたことを重視し、今後も、生活指導夕会を始め、学校サポートチームによる校内委員会などで児童の様子を情報共有し、全教職員で対応に当たるほか、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーを一層活用して児童のストレスや悩みを十分に受け止めるようにしていく。

また、「学校へ行くのが楽しい」は昨年度とほぼ同様の77%ではあるが、「たてわり班活動などで、思いやりの気持ちは大切にしているか」が4%増加の94%であったことや、「友達と仲よく」・「学校行事は楽しいか」・「宿泊行事で友達と触れ合えたか」などが90%前後であることを踏まえると、各学年・学級での活動や全校でのたてわり班活動で、学校で楽しく過ごせる場を工夫し、メリハリのある学校生活が送れるように教育活動を展開していく。

3 今後の改善方策

来年度は、1年生が2学級対応になり、運動会等、新校舎では初めてとなる行事もある。また、ミッドタウン八重洲に位置する学校として、理数教育やキャリア教育等で新たな企業連携の可能性も広がってくる。こうした状況を踏まえて事前の計画・準備を入念に行い、城東小学校の伝統やよさを受け継いぎながら児童の成長につなげていく。

そのためにも、教職員が一体となり、学校からの積極的なアプローチや情報発信をしながら、保護者・地域との連携をさらに密にし、PDCA→Pのサイクルで改善を図っていく。